

ベトナム産コーヒー輸出額、過去最高に

ベトナムは現在、世界第 2 位のコーヒー生産国として、全世界の約 17～18%を占めるコーヒーを生産しています。2024～2025 年の収穫期（北半球では 2024 年 10 月頃～2025 年 2 月頃に収穫されたもの）には、過去最高の輸出額となる約 84 億米ドルを記録しました。背景には、生産地である中南米諸国の気候変動による供給減少（特にアラビカ種）と、関税政策や物流コストの上昇を含む国際的な供給網の混乱がありました。ロブスタ種を主力とするベトナムは、これらの影響を比較的受けにくく、生産量と品質の両面で競争力を高めた結果、輸出実績を大きく伸ばしました。また、供給減少による世界的なコーヒー価格の高騰もベトナムのコーヒー生産者を後押ししています。

ベトナムのコーヒー生産量は 2000 年代以降に飛躍的な伸びを見せ、2000 年頃の年間生産は約 80 万トン前後だったのに対し、2010 年には 120 万トンを超え、2020 年代には 150 万トン規模に達しました。輸出量も 2000 年の約 65 万トンから 2010 年に 110 万トン、2024 年には 130 万トンを超えるまでに成長しました。主力品種のロブスタ種は全生産量の約 95%を占め、一方でアラビカ種は約 5%にとどまります。アラビカ種はラムドン省など標高の高い地域で生産され、繊細な酸味と香りを持つ高品質コーヒーとして注目されています。これらの地域では再植栽や水資源管理など、持続可能な農業への取り組みも進み、安定的な供給体制を整えています。

日本市場においても、ベトナム産コーヒーは重要な位置を占めています。2024 年時点で日本が輸入するコーヒーのうち約 17～30%がベトナム産であり、ベトナムはブラジルに次ぐ第 2 位の供給国です。日本ではベトナム産ロブスタが主にインスタントコーヒー、業務用ブレンド、缶・ペットボトル飲料などに使用され、近年ではベトナムブランドの焙煎豆や粉加工品も市場に浸透しつつあります。こうした市場の広がりには、同国の輸出先多様化を支える要因ともなっています。

近年、ベトナムのコーヒー産業は「量から質へ」の転換を進めています。従来の原料輸出中心の構造から脱却し、焙煎、粉加工、インスタント製品などの高付加価値化を進めることで、輸出構造の高度化を図っています。これにより、農家収入の安定や国内産業の発展が促されるだけでなく、国際市場での競争力も強化されています。特にアラビカ種の拡大や高品質ロブスタの開発、ブランド化された製品の輸出拡大などは、「ベトナム産＝大量安価」という従来のイメージを変えつつあります。今後は、環境保全型の生産やフェアトレードの推進といった国際的潮流に対応しながら、持続可能で付加価値の高い産業への成長が期待されます。

米国の相互関税措置への対応（更新情報）

米国が 10 月 26 日に公表した米国とベトナムの共同声明によると、両国は、これまでの経済・貿易関係を基盤に、双方にとって「相互的、公正かつバランスの取れた貿易関係」を実現するための

枠組みに合意しました。近く正式な協定に署名し、発効に向けた国内手続きを進めることを表明しています。

主な内容とポイント

- 貿易と投資に関して二国間市場アクセスの拡大を目指すことで合意。米国製品に対するベトナム側の優遇措置、ベトナム製品に対する米国側の関税・非関税障壁の見直しを含む。
- 米国は、ベトナム製品の多くに現在適用されている関税(20%)を維持するとともに、一部品目については将来的に関税をゼロまで引き下げる可能性を検討。
- ベトナムは、米国製品・サービスの輸入拡大を表明。例えば、米国からの航空機購入契約、農産物輸入契約など。
- 非関税面の障壁への取り組みとして、ベトナム側は米国の車両安全基準・排ガス基準の受入れ、医療機器・医薬品の承認手続きの改善、知的財産保護の強化などを約束。
- 両国は、サプライチェーンの強靱化、関税回避や輸出管理の協力、輸出入・投資の監視など、安全保障を含む広域的な貿易・経済枠組みの強化にも合意。

大阪産業局 ベトナムビジネスサポートデスク

株式会社 NC ネットワーク (ベトナム: NC Network Vietnam JSC.)

日本事務所：東京都台東区東上野1丁目14番5号 ユーエムビル8階

ベトナム事務所：48, No.5 Street, Him Lam, Tan Hung Ward, District 7, Ho Chi Minh, VIET NAM